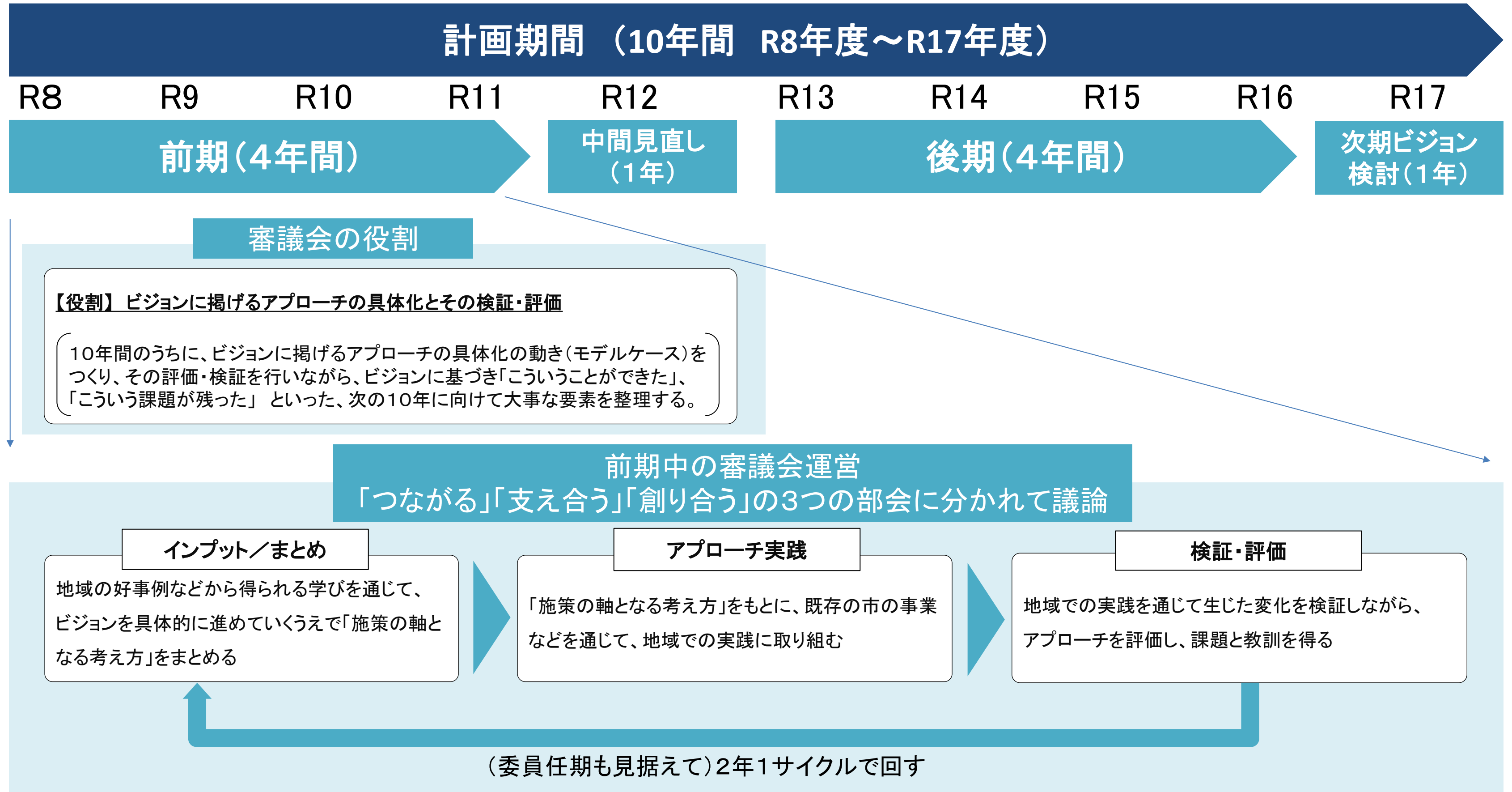


審議会の今後の進め方について（案）

文化市民局 地域自治推進室

令和 8 年 7 月 3 0 日（木）

計画期間（10年間）中の審議会の進め方



ビジョンにおける
アプローチ

現状・課題

地域の好事例を
通じた学び施策の軸となる
考え方

アプローチ実践

アプローチの
検証・評価

つながる」
アプローチ①
活動の見える化、魅せる化

地域活動の参加の入り口
の見える化や一人ひとりに
届く情報発信

会員外・地域外の人に
情報が届いていないなど、
そもそも地域活動が知られ
ていない。

発信する情報も「参加して
みたい」と思わせる魅せ方
になっていない。

情報発信の仕方を工夫し、
新たな参加者の取り込みに
成功している地域から学ぶ

Q)何があったから上手く
いったのか
Q)地域にどのような変化が
起きたか

「何のために(会員外・地域
外の人に)情報発信するの
か」という理解の醸成が必要。

「誰に、どのような情報を、
どのような手段で発信する
か」といった地域の実情や
ニーズに応じた丁寧な支援
が必要。

「地域ICT化推進事業助
成」に申請された地域団体
の相談に寄り添い、ニーズ
に合わせたICTツールの導
入を支援する。

ICTツールを導入した地域
の情報発信の取組を後追
いし、生じた変化を確認。

モデルケースから得られた
教訓をもとに、横展開に向
けて必要な要素を整理。

支え合う」
アプローチ⑦
地域活動への参加

転入時の自治会・町内会
加入の呼びかけ

未加入者と地域住民の
交流促進

転入時の加入呼びかけが
十分にできていない。

自治会・町内会の催しに
未加入者は声が掛からな
い、参加できない。

特別会員制度を導入したり、
未加入者も参加できる交流
イベントを実施するなど、
関わりの選択肢を広げてい
る地域から学ぶ

加入促進だけでなくもっと
参加促進を。遠回りかもしれ
ないが、地域のことをもっと
知ってもらうきっかけが必要。

加入・未加入の二択だけで
なく、関わりの選択肢を広げ
ることも必要。

「地コミ活性化に向けた
地域活動支援制度」によっ
て、加入促進や未加入者も
含めた催しなどの地域の
新たな取組を支援する。

未加入者の関わりを広げ
る地域の取組を後追いし、
生じた変化を確認。

モデルケースから得られた
教訓をもとに、横展開に向
けて必要な要素を整理。

創り合う」
アプローチ⑩
多様な主体の交わり合いや
対話、連携・協働の拡大

多様な主体の連携や協働
による課題解決や新たな
価値創出

連携・協働のプラットフォー
ムは行政主導だけでなく
民間にも広がっている

連携・協働をコーディネート
する人や団体がもっと必要
(地域のHub)

民間で地域のHubとなって
コーディネートし、多くの
共創事例を生み出している
組織・団体から学ぶ

区Hub・市Hubと民間Hub
同士がつながりを深め、
気軽に情報共有できる機会
や枠組みが必要。

「お宝バンク」に登録してい
る団体や区Hub・民間Hub
が把握する地域団体等の
ニーズをマッチングし、新た
な連携・協働を創出するた
めの機会や枠組みをつくる。

連携・協働の枠組みの中で
生じた変化を確認。

モデルケースから得られた
教訓をもとに、次なる展開
に向けて必要な要素を
整理。

R 8 ～ R 9 年度の審議会の進め方

R
8
年
度☒ R8. 7月30日

審議会①(全体会議)



○ 審議会の今後の進め方について確認

☐ 9月～11月

部会①(つながる部会／支え合う部会／創り合う部会)



○ 地域の好事例のインプット / 施策の軸となる考え方の検討

☐ R9. 1月～3月

部会②(つながる部会／支え合う部会／創り合う部会)



○ 施策の軸となる考え方とりまとめ / モニタリングする実践取組の検討

☐ 5月頃

審議会②(全体会議)



○ R8年度の各部会での議論の共有 / R9年度にモニタリングする実践取組の確認

☐ 8月～12月

部会③(つながる部会／支え合う部会／創り合う部会)



○ モニタリングする実践取組の検討の中間報告、意見交換

☐ R10. 3月頃

審議会③(全体会議)

○ 実践取組の評価 / 次の2年間の審議会運営について確認

R
9
年
度